

ロマンチック街道の 遺跡を掘る!

第1号 2017年3月24日

公益財団法人鳥取県教育文化財団では、一般国道313号（倉吉関金道路）の改良工事に伴い、平成28年6月から11月まで、倉吉市小鴨および上古川に所在する山ノ下遺跡の発掘調査を実施しました。

ここでは、これまでの調査成果の一部を御紹介します。



南西から山ノ下遺跡を望む



山ノ下遺跡の位置

山ノ下遺跡の調査成果

山ノ下遺跡は、倉吉市小鴨と上古川にまたがる12,000㎡の遺跡です。平成28年度はこのうちの7,000㎡を調査対象としました。

遺跡の中心となる時代は平安時代の終わり頃～鎌倉時代（約1,000～700年前）にかけてで、この時代には地面に穴を掘って直接柱を建てる建物（掘立柱建物）が少なくとも17棟あることがわかりました。このうちの1棟は5間×5間（約150㎡）の大きさがあり、当時としては非常に大きな建物であることが明らかになりました。

この他にも、弥生時代（約2,600～1,750年前）の土坑（穴）や縄文時代（約16,000～2,600年前）の落とし穴と考えられる土坑などが見つかりました。

(公財) 鳥取県教育文化財団 調査室

〒680-1133 鳥取市源太12番地

TEL: 0857-51-7553 FAX: 0857-51-7550

メールアドレス: tottori-kyobun@kyobun.sakuratan.com

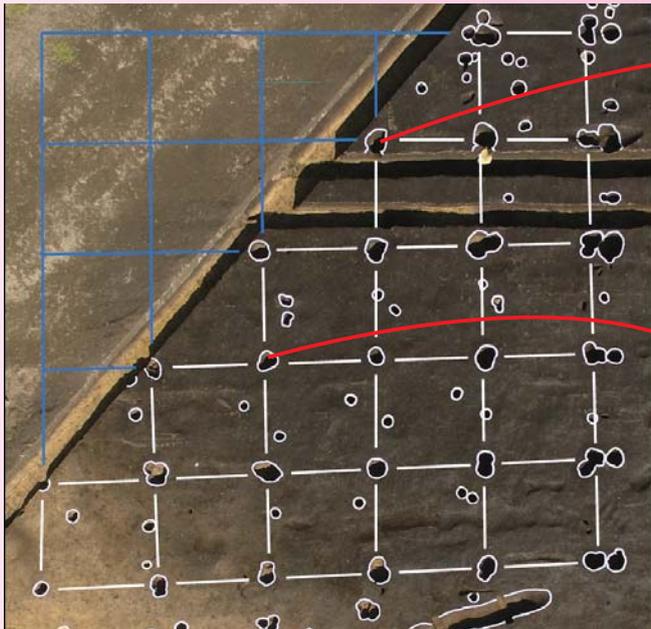
HP: http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu_new.htm

(公財) 鳥取県教育文化財団 中部調査事務所

〒682-0021 倉吉市上井503番地1

TEL: 0858-27-0570 FAX: 0858-27-0571

出土遺物は何を語るか！！



大型の掘立柱建物13



見つかった磁器

平成28年度の山ノ下遺跡の発掘調査は11月30日で終了しました。現在は、見つかった遺物（土器や石器などの昔の人々が残した物）の図化や写真撮影などの作業を行っています。

山ノ下遺跡からは多くの土器片が見つかりましたが、人々が日常使っていた素焼きの土器のほかに、中国で作られ日本に輸入された青磁や白磁と呼ばれる磁器（※1）も混じっていました。はるばる海を越えて持ち込まれた磁器は、貴重かつ高価で入手することが困難な品物だったにちがいありません。つまり、それらを手にするだけの財力を持った人々が山ノ下遺跡周辺に居たことを物語っています。

今年度の調査で見つかったなかで最大の規模である1辺が約12mもある掘立柱建物13の柱穴の中からも、小さなものですが磁器の破片が見つかりました（写真参照）。調べたところ、磁器は11世紀後半～12世紀前半頃に作られたと考えられるものでした。

この建物跡では、2つの柱穴の中から柱の一部と考えられるスギと鑑定された木片が見つかりました。そこで、放射性炭素年代測定（※2）を実施したところ、どちらの木片も10世紀後半～11世紀前半のものという分析結果が得られました。しかし、分析した木片は芯に近い成長途中の部分で、伐採された時の樹皮部分ではないため、分析部分からさらに何十年か成長を続けた後に伐採された可能性が高いと考えられます。この想定が正しければ、11世紀後半頃までに伐採された木が掘立柱建物13の柱として使用されたこととなります。

これらの結果から、山ノ下遺跡には11世紀後半～12世紀前半に大型の掘立柱建物が建っていた可能性が高いことが明らかになってきました。この建物が何に使われていたのかが今後の検討課題です。

※1 磁器とは石の粉末を主原料にしたもの。土を主原料にしたものは陶器といえます。

※2 木などに含まれる炭素を分析して年代を測定する方法



平成28年度から、当財団が一般国道313号の道路改良工事に係る発掘調査を担当することとなりました。

平成29年度も引き続き発掘調査を順次行っていく予定です。

新たな発見があると思いますのでご期待ください。

鳥取県教育文化財団 調査室

検索